

結核に対応する新しい感染症法と病院設備

結核患者への対応 —環境消毒, 器材の消毒—

尾家 重治 山口大学医学部附属病院薬剤部 助教授

環境消毒

結核は空気感染により伝播する。したがって、窓の開放や空調により病室の空気浄化が済んでいれば、結核患者が使用した病室の消毒は基本的に不要である。

ただし、血液や喀痰などでの体液汚染箇所には、消毒が必要である。0.5%~1% (5,000~10,000ppm) 次亜塩素酸ナトリウムやアルコールをしみ込ませたガーゼなどによる清拭消毒を行う。二度拭きが望ましい。なお、床面などに落下した結核菌がゴミやホコリとともに舞い上がる可能性もゼロではないので、床面などを 0.5% 両性界面活性剤 (テゴ-51[®], ハイジール[®]など) で清拭消毒しておくことはより望ましい。

次に、結核患者が使用した病室の誤った消毒例を挙げる。

- × ホルマリンくん蒸
- × グルタラール清拭
- × フタラール清拭
- × オゾン消毒
- × クレゾール石けんの使用

器材の消毒

結核菌汚染の器材の消毒には、80~93°C・3~10 分間の熱水や、グルタラール (ステリハイド[®], サイデックス[®]など), フタラール (ディスオーパ[®]), 過酢酸 (アセサイド[®]), 次亜塩素酸ナトリウム (ミルトン[®], ピューラックス[®]など) およびアルコールなどの消毒薬が有効である。第一選択消毒法として熱水を、第二選択消毒法として消毒薬を用いる。

次に、結核菌汚染の器材の誤った消毒例を挙げる。

- × グルタラール消毒後に熱水消毒
- × グルタラールやフタラールで蛇管を消毒
- × 次亜塩素酸ナトリウムで鋼製小物を消毒
- × 塩化ベンザルコニウム (オスバン[®]など) で内視鏡を消毒